2011年4月10日

２０１０年度　浜辺のインタープリター（解説者）養成講習会事業報告書

ＮＰＯ法人オーシャンゲート　ジャパン

|  |  |
| --- | --- |
| 事 業 名 | 浜辺のインタープリター（解説者）養成事業（日本財団　助成事業） |
| 期　　間 | ２０１０年４月1日～２０１１年３月３１日 |
| 場　　所 | 和歌山県白崎海洋公園とその近郊海域 |
| 当初予想 | 参加者人数　１８０名、ボランティアスタッフ　７２名、開催回数　３６回 |
| 実 績 | 参加者人数　２０６名、ボランティアスタッフ　９９名、開催回数　２５回 |
| 講習会別  参加者内訳 | 基礎Ａ講習会　５０名、基礎Ｂ講習会　８４名、初級講習会　７２名  Ａ：泳げない方向け・浜辺のインタープリター養成基礎Ａ講習会  Ｂ：泳げる方向け・浜辺のインタープリター養成基礎Ｂ講習会  Ｃ：安全サポーター受講者向け・浜辺のインタープリター養成初級講習会 |

自己評価と考察

|  |
| --- |
| 助成事業において、気象庁観測史上例を見ない猛暑や爆弾低気圧の影響にもかかわらず、目標をはるかに超える多くの人々のご参加をいただき、年間を通じて２０６名の参加者が得られた。（当初の目標は１８０名の参加者の実現だった。）  泳げる方や泳げない方そして安全サポーター受講生の方々が、それぞれの状況に応じた講習会別の実習ができたことにより、安全に安心した講習会が無理なく和やかな雰囲気で実施できた。  泳げない方は、泳ぐ技術とスノーケリングの技術とは異なることを実感することで、水への恐怖が無くなり、観察と解説の技術を習得された。泳げる方は、さらに海への楽しみや活動範囲が増え、様々な海域に棲息する生物の生態を興味深く実感できた。安全サポーター受講生は、磯と渚、岩場と砂場における生物の生態の違いを観察し、どのような説明が理解を進めていくかを体感できた。  予想を超える参加人数が得られたのは、きめ細やかな募集チラシの配布はもとより、口コミでの広がりの影響も大きい。また、現地施設や団体による様々な協力も事業を推進できた一因である。地域のボランティアの参加も多く、当初予定していた７２名をはるかに超える９９名の協力を得られたことも、成功への大きな要因である。  今回の事業は多くの参加者とボランティアに対して、豊かで素晴らしい海を知り、その美しさ実感する本当にいい機会になった。安全に安心して日本の近海を知る教育的・環境的な価値を高めただけではなく、日本の近海を後世につないでいこうという意欲や強い意思にもなり、海を守っていこうという情熱までもが感じられる事業になった。そして多くの大学や専門学校、各団体とのつながりもさらに深まり、地域コミュニティとの連携が広がり、継続的な事業展開への多くの期待と要望をいただいた。 |

－１－

今後の事業課題

|  |
| --- |
| ２０１０年度は、国際生物多様性年であった。日本の近海は、世界に誇る海洋生物の宝庫であることが、多くのTVや新聞などの報道でも知るところとなった。  多くの参加者やボランティアが、日本の近海の素晴らしさや美しさとそこに棲息する生物の多さに触れて、その豊かさを再確認する大きな機会になった。  この豊かで素晴らしい海を観察することや解説方法を知ることにより、海洋生物の生態への興味と感動を、多くの参加者と共感できた。  自然の持つ美しさやおおらかさを体験を通じて実感できたことにより、環境保全や自然保護に対する意識も高めることができた。  この事業が、一過性の事業としてではなく、継続的な事業として育んでいく必要性が、まさにここにあることが実感できた。  今後は、もっと多くの人々に参加いただき、多くのボランティアも一緒に集うことができる講習会を、今回以上に頻繁に実施したい。  そのためには、さらに安全で安心できる体制づくりときめ細やかなプログラムづくり、地域コミュニティとの連携の強化や、地域ボランティアスタッフの充実と技術と知識の向上が求められる。  また、参加者には、もっと専門的な知識とステップアップした技術を習得できるような講習会を、系統的に継続して実施していくことが必要になる。 |

以上

　－２－